

めぐりあい

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



お世話になりました



新たな出会いへ

大学では、今年もまた、卒業生が一堂に会することなく、学部ごとの小規模な卒業式となり、私はビデオメッセージで次の祝辞を送りました。

*

本学の理念「違いを共に生きる」とは「調和のとれたモザイク模様を形成すること」とも言えます。

様々な色や形をした一片一片が集まっていても、それぞれがかげがいのない役割を果たし、全体として美しいモザイク模様を作り上げている、それが「違いを共に生きる」とことだと思えます。

皆さんも、大きい、小さい、華やかな色、いぶし銀の色、どの一片であれ、自分らしい色や形で、社会での役割を果たしていけることを心より祈念いたします。

閉園の危機にあった旭山動物園を見事に再生させた元園長の小菅正夫さんの話をいたします。

小菅さんは、それぞれの動物の個性を、来場者に見てもらえるような工夫をしました。

陸ではよちよち歩きでも泳ぎが得意なペンギンが水中トンネルで空を飛んだ

り、握力の強いオランウータンが空中散歩をしたり、好奇心の強いアザラシが至近距離で人間と対面をしたりなど。

それぞれの特性が現れた動物たちの生き生きした行動が見るものに感動を与え、動物園は見事に再生したのです。

小菅さんはこうした素晴らしい動物たちが今危機にあると訴えています。

木材の伐採により棲む場所が減っていくオランウータン。温暖化によりその数を減らしているアザラシ。南極にまで流れてくる水質汚染に苦しんでいるペンギン。

小菅さんは「この世の生きとし生けるものは、地球に命が誕生した40億年前から命を引き継ぎ今生きています。その大切な命を人間の都合で絶滅させてはならない」と訴えているのです。

どうぞ皆さんも、人間同士の「違いを共に生きる」だけでなく、生物、動物、全ての命と共に生きる視点も大切にしていただきたいと思います。

皆さんもまた、はるか太古から連続と引き継がれてきた一つの命が出会い誕生しました。自分の力だけで育つことができない皆さんは、大切に育まれ、歩き出

し、しゃべりだし、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして大学と、多くの人に支えられ、いま社会へと巣立っていかうとしています。

皆さんお一人おひとりが、かけがえない大切な命であることを自覚し、育み支えてくれた人たちへの恩を忘れずに、これからは支える側になるのだとの決意をもって、大きく羽ばたいていってください。

*

簡素な式でしたが、桜のつぼみが膨らむ春の良き日、羽織袴、スーツ姿で華やかだ卒業生たちは、新たな出会いを求めて、凜として旅立っていきました。

人生は深い縁(えにし)の

不思議な出会いだ

子を抱いていると

ゆく末のことが案じられる

よい人にめぐりあつてくれと

おのずから涙がにじんでくる

めぐりあいの

ふしぎに

てをあわせよう

(坂村真民『めぐりあい』より)